

平成27年度 定期総会・会員総会 報告

一般社団法人名古屋工業会の平成27年度定期総会、理事会ならびに会員総会が5月23日(土)、中日パレスにおいて開催された。

定期総会には、理事長、副理事長、常務理事、代議員等が出席し、二枚常務理事の司会で、水嶋理事長が開会挨拶の後、議長となり、議事録署名人を指名した。二枚常務理事が報告事項を説明した後、26年度事業報告及び収支決算案、27年度事業計画及び収支予算案、理事の選任について審議され、各議案とも原案どおり議決され、終了した。

その後の理事会には理事・監事が出席し、副理事長、常務理事の選任と相談役、参与の就任について審議し、副理事長に森秀樹氏、坂井利充氏、加川純一氏、木越正司氏、常務理事に内藤克己氏を選任、相談役に二枚幸夫氏、参与に阿部完二氏、北村正氏の就任が議決され、終了した。

続いて開催された会員総会では、冒頭、26年度にご逝去された会員物故者94名のご冥福を祈り、出席者全員で1分間の黙祷を捧げた。

会員総会には内藤常務理事が司会となり、水嶋理事長の挨拶、鵜飼学長の会長挨拶の後、定期総会ならびに理事会で諮られ承認された決議事項が報告された。

次に総会行事として、理事長から叙位叙勲等表彰者に記念品、母校退職職員に感謝状等、会員で卒業満70・60・50・40周年の代表者に記念品、退任役員へ感謝状と記念品が贈呈された。

続いて、中村隆氏(M50)の司会で、トヨタ自動車(株)元常務取締役・トヨタ車体(株)元取締役会長塩見正直氏(M34)から「サステイナブル・モビリティの実現に向けて」と題して特別講演をいただいた。

会場を移して開催された懇親パーティーでは、木越副理事長の司会で森副理事長の挨拶の後、加川副理事長の乾杯の発声で始まり、名古屋工業大学OBオーケストラによる演奏のなか、杯を交わしながら和やかに歓談、旧交を温めた。最後に、恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い、坂井副理事長の閉会の辞で盛会裡に閉会した。

平成27年度 定期総会 次第

1. 議 事 (決議事項)

- 第1号議案 平成26年度事業報告及び収支決算案
- 第2号議案 平成27年度事業計画及び収支予算案
- 第3号議案 代議員の選任
- 第4号議案 役員を選任
- 第5号議案 その他

平成27年度 会員総会 次第

- 1. 理事長挨拶 一般社団法人 名古屋工業会理事長 水嶋敏夫
- 2. 会長挨拶 国立大学法人名古屋工業大学学長 鵜飼裕之
- 3. 報告事項 定期総会での決議事項の報告
- 4. 行 事
 - イ 叙勲受章者に記念品贈呈 (2名)
 - ロ 名古屋工業大学定年退職職員への感謝状等贈呈 (6名)
 - ハ 名古屋工業大学卒業満70.60.50.40周年の会員へ記念品贈呈 (310名)
 - ニ 特別講演 講師：塩見正直氏 (M34)
トヨタ自動車(株)元常務取締役・トヨタ車体(株)元取締役会長
演題：「サステイナブル・モビリティの実現に向けて」
- 5. 懇親パーティー

理事長挨拶

一般社団法人 名古屋工業会
理事長 水嶋 敏夫 (M42)

一般社団法人 名古屋工業会 平成27年度会員総会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は全国からこのようにたくさんの会員の皆様にお集まり頂き、誠にありがとうございます。

私は昨年5月この場で理事長を拝命いたしました。全学の同窓会組織としての役割を果たすべく取り組んで参りましたが、会員の皆様方の多大なご協力によりまして、工業会活動の2つの柱であります「大学支援」と「会員相互親睦」をねらった活動を順調に進めることができた実感しております。

各支部の会員の皆様ならびに鶴飼学長はじめ大学教職員の皆様、関係各位に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

さて、会員総会に先立ちまして開催した定期総会におきまして平成26年度事業報告および決算案ならびに平成27年度事業計画および予算案をご報告し了承を頂きました事をここにご報告します。

決議事項の詳細は後程、常務理事からご説明をいたしますが、考え方について私からご説明いたします。

工業会は、「耀く、ますます耀く母校」を願って「大学を支援する」ことを事業目的の第一に謳っております。

母校は今、鶴飼学長のリーダーシップのもとで「科学技術で未来社会を創るという高い志を育む教育」を通じた「実践的工学エリートの育成」を目指して、昨年発表された「名工大版理工系人材育成戦略」に基づく教育改革に取り組んでみえます。

未来志向の高い志を持って技術を追求する人づくりに向け、今年度も「大学支援」を活動の第一の柱として参ります。

先生方には国際的に高く評価される研究およ



び国際交流を、在学生の人には社会に出てグローバルに活躍できる人材育成施策を支援してまいりたいと考えています。

昨年は36名の方が海外研鑽に参加されました、私もその報告会に出席させてもらい、お話を聞かせていただきましたが、その発表者の態度も実に立派で資料も上手く作られており「頼もしさ」を感じました。

留学前の状況はよく知りませんが、人間的に大きく成長されたのだらうと実感できる発表会でした。

海外留学は大変有意義な経験であって、今後この活動が拡大されていって欲しいという風に感じた次第です。

さて、学生の本分は学業への専念ということですが、課外活動は多様なメンバーとのコミュニケーション能力やマネジメント力あるいはリーダーシップを養うことのできる貴重な場でございますので、積極的に参加して欲しいと願っています。

昨年の課外活動では「ロボットコンクール」で日本一となり、世界大会でも2位に入賞して大学の認知度を大きく高めてくれました。

こういうナンバーワンを目指した挑戦的課外活動には工業会としても積極的に今後とも支援していきたいと考えております。

ちなみに次回の支部長会議は滋賀県の長浜市で開催し、そのまま琵琶湖で開催される鳥人間コンテストの応援に皆で駆けつけるようにしましたので、名工大チームの後輩諸君も大いに頑張ってくれるものと期待しています。

また、今年で110周年を迎える母校は、大学の活動を広く理解してもらう為に、今年の11月21日に「ホームカミングディ」を開催します。

長年名工大を訪れたことのない方も多くみえると思います。

私も実はその一人だったんですが、建物も設備も大きく変わった母校を久し振りに見て懐かしむとともに、未来に向けて進む母校の姿を見て欲しいなと思います。

この機会を活用して、名古屋地区で同窓会等を計画されている方々もあるようですございますが、工業会本部としても全面的に協力して参りますので、是非この機会に懐かしい母校へ足を運んで頂きたいと思います。

工業会の活動の第2の柱は「会員相互の親睦」です。具体的には、会員の皆さんへのサービス向上と相互親睦へのお手伝いができるよう、次のような取り組みを進めております。

これは本日正式にご案内する、一部の方にはお配りしたのですが、今年度中にはカード形式の会員証を会員の方に初めて発行したいと思っています。

これは工業会の会員としての帰属意識を持ってもらうことが第一のねらいでございます。

住所等の会員情報を整備し、定期的に更新して参りますので、この会員証のメンテではご協力をよろしくお願い致します。

昨年度来、会員優待制度を拡大して参りました。

現在、全国の東急ホテル・マリOTTアソシア・名鉄ホテルでは一般より30%以上割引きされた特別優待料金で利用できるようになっています、名古屋の徳川美術館にも2名まで無料で入場できる優待制度も導入しております。

今後も優待制度を広げていきたいと思っておりますので、各支部でもご検討をお願いします。

一方で、工業会のホームページを使いやすく分かり易いものと改善すべく、大学の動き等も日々ニュース配信しております。

今後は、会誌の「ごきそ」の印刷費や郵送にかかる通信費といったものを削減していく為

に、紙での配布を止め、電子化したいと考えております。

会員専用のホームページでご覧頂くようにしたいと思いますので、よろしくご協力をお願い致します。一遍にはできないと思っておりますが、少なくとも来年卒業の卒業生の方は電子化をしたいと考えています。よろしくお願い致します。

又、名工会の会員増強の件ですが、一昨年は会員が29名しか増えませんでした、各支部が勧誘を積極的に行ってくれたおかげで、昨年は実に257名もの大幅増員ができました。

その結果、会員数は現在13,000人を超える会となりました。皆様のご努力に感謝致しますとともに、今後ともこの活動を根気よく続けて行きますのでよろしくお願い致します。

来年3月に卒業する現役大学生の90%以上は入学時から既に工業会の会員となっております。これから各支部の会員数は毎年確実に増加していきます。

これは工業会の各支部においても、若返りを図る良いチャンスだと思いますので、若い人が参画し易い企画を考えて頂き、支部活動の活性化につなげて頂きたいと思っておりますので、よろしくご検討お願い致します。

以上のように、工業会の活動は「大学支援」と「会員相互親睦」これを2本の柱として進めて参りますが、最後に、母校が行う名工大基金へのご協力についてお願いがあります。

国立大学法人である母校が、限りある予算の中で優秀な学生を輩出し続けるには、卒業生の皆さんからの直接的な支援が必要です。

あらゆる機会を捉え、名工大基金への寄付のご協力をよろしくお願い致します。

お願いばかりで大変恐縮ですが、よろしくお願い致します。

本日は会員総会の後に塩見先輩の特別講演、その後に、懇親パーティという企画をしております。時間の許す限り親睦を深めていただきたい、楽しい時間を過ごしていただくことを念じて私の挨拶とします。本日はありがとうございました。

会 長 挨 拶

国立大学法人 名古屋工業大学 学長
一般社団法人 名古屋工業会 会長
鶴飼 裕之 (F52)

名古屋工業会会員総会の開催にあたり、母校、名古屋工業大学を代表して一言ご挨拶を申し上げます。名古屋工業会会員の皆様には、本学の教育研究活動にご理解、ご支援を賜りまして、まずは、厚くお礼申し上げます。また、水嶋理事長をはじめ名古屋工業会役員の皆様には、常日頃から卒業生連携室、基金運営などの活動を通じて本学の事業運営を支えて頂いております。改めて深く感謝申し上げます。

さて、明治38年に名古屋高等工業学校が創立されて今年で110年を迎えます。また、平成16年の国立大学法人化後は6年毎に中期目標期間というのが定められておりますが、今年は第二期の最終年であり、6年間の総括と平成28年度から始まる第三期の目標計画の策定にあたるなど、今年は節目となる年でもあります。一方、すでに皆さま新聞等でご承知のことと思いますが、政府の会議の提言を受けた「国立大学改革プラン」に基づいて、「強みと特色の重点化」「グローバル化」「イノベーション創出」「人材育成」など視点からの教育研究機能の強化と「人事・給与システム改革」「組織運営のシステム改革」などガバナンス機能の強化に向けた改革を加速させる期間としても位置付けられております。こうした状況のなか、昨年以来、将来ビジョンとして「伝統を礎に、新たなグローバルステージへ」踏み出すというビジョンを掲げ、学部・大学院の一体的な再編成、新教育課程の設置、研究力強化体制の整備など、教育研究の機能強化のための大胆な改革に向けて、現在教職員一体となって取り組んでいるところです。さらに、若手人材の確保や企業からの有為な人材の積極的な登用を目的として、年俸制や弾力的な雇用制度の導入などの改革を速やかに実施いたしました。その結果、本学の改革構想が平成26年度「国立大学改革強化推進補助金」に採択さ



れ、着実に改革を実現するための第一歩を踏み出すことができました。

今、社会・産業界からは「大学のグローバル化」が強く期待されております。大学にとってのグローバル化を教育と研究という両面から見てみたいと思います。まず、教育におけるグローバル化とは、多様な人材が共に協働して働くキャンパスをめざした国際的なダイバーシティ環境を整えることであると考えます。語学力の習得強化、学生の海外留学や若手教員の海外研究派遣の拡大、留学生の増大のための教育プログラム・支援体制の充実、又、国外からの研究ユニット招致によって優秀な外国人教員を積極的に招へいするなど、キャンパスの国際化をめざした仕組みを構築しております。一方、男女共同参画を積極的に推進して女性の活力を存分に活かしていくことも必要です。さらに、研究型インターンシップや学生と企業人の共学型の教育プログラムを充実させて企業人材との交流を活性化していきます。こうした多様な人材との交流が日常的に行われることで大学はグローバル化していくものと考えております。

一方、研究におけるグローバル化とは、本学がこれまで培ってきた産学連携の強みを活かして産学連携研究での実績をおおいに活かし、グローバルカンパニーへとさらなる躍進をめざす地域企業を積極的に支援して産業の国際的競争力強化に貢献するとともに、一方で先端的な研究を推進してイノベーション創出につながる独創的な技術を生み出していくことであると考えます。

国の活力を維持し向上させていく基盤は人材であることは論を待ちません。わが国の18歳人口が減少するなかにあっても、優れた資質と能力を有する多様な学生を受け入れ、その力を最大限に伸ばしていくことこそが大学の基本的な使命です。一方、価値観が多様化する現代、工学の分野においては、技術を深化させ、独創的な発想で新しい技術を生み出す開発・研究型人才とともに、新しい価値観と多面的な視点で新産業を創出できる創造的人材が求められるなど、社会や産業界の理工系人材に対するニーズも多様化しています。平成28年度からスタートいたします創造工学教育課程は、大学院博士前期課程への進学を前提とした6年一貫型の教育課程であり、それがめざす創造的な人材像と工学デザイン科目を主軸とした教育内容に対しては、産業界や社会から大きな期待が寄せられております。また、学問体系と産業界のニーズに基づいて再編する新学科・新専攻での教育は、伝統的な工学体系と高度専門的工学人材を育成する教育課程を踏襲しながらも、急展開する社会変化に対応しつつ時代を先取りする新たな工学教育体系となるものと思っております。社会・産業界からの期待に応えるべく、グローバル人材の育成に向けて今後も全学体制で取り組んでまいり所存です。

一方、大学における研究力の源泉は一人ひとりの教員の独創的な発想から生み出される研究にあり、それはまた教育にも優れた効果を現わします。本年4月には、国内外の著名な大学・研究機関あるいは企業との共同研究ユニットによる研究拠点化と、関連する専攻と連携して大学院教育を行う融合的な教育研究特区である、材料科学および情報科学のフロンティア研究院を設置しました。これら特区の研究教育効果を全学の研究分野に波及させ、「エネルギー」「ライフ」「知能技術」などのイノベーション原動力の創出とグローバル人材の育成をアウトカムとする統合的な研究体制を整備いたしました。これらの研究院を核にして特定分野での世界的な拠点の形成をめざしながら、同時に「テクノ

ロジーの宝庫」と称される本学の研究力をさらに強固にしていくために、例えば国の大型プロジェクトの招致であるとか、あるいは産学協同研究体制の整備などを戦略的に推進してまいり所存でございます。昨日竣工記念式典を行いました新研究棟「4号館」は、産学官交流プラザや企業の自立的な研究展開の場所と機会を与えて学内の研究教育資源を活用していただく産学協同研究講座・研究部門を備え、まさに本学の産学官連携を大いに発展させ、研究力をアピールする契機になる建物となっております。

昨年同様、本学では学生が非常に元気です。先程紹介がありました鳥人間コンテストも今年出場が決まっております。ロボコン工房もまた国内大会にエントリーしています。ソーラーカーも、オーストラリアの世界大会をめざして一生懸命戦っています。その他にも様々な課外活動で学生は活躍しております。また、先ほど水嶋理事長から紹介があったように多くの学生が、海外へと飛び立とうとしています。きっかけをつくってやれば、彼らはどんどん海外へ飛び立っていきます。そのきっかけをつくり、あるいは後押しをしていただくため、名古屋工業会様からは大きなご支援を頂いております。

今年は本学の同窓生のモニュメント的建物である講堂の改築もあります。来年竣工のときには、新たな名工大のシンボルとしてご紹介するイベントを企画しています。

さらに、今年はホームカミングデーを開催し、卒業生の方に名工大をもっと知っていただく、もっと名工大の学生と交わっていただく機会を作る予定です。ぜひ、お越し下さい。

名古屋工業大学は、教育と研究の両輪を改革によってさらに勢いよく回転させ、グローバルステージへと踏み出してまいります。皆様のより一層のご支援、ご協力をお願いして、私のご挨拶とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。

平成27年度 役員名簿

理事(9) 水嶋敏夫 M42 ○ 加川純一 K49
○ 坂井利充 C42 木越正司 C44
○ 内藤克己 A43 ○ 森 秀樹 D52
○ 水谷尚美 D42 ○ 森川民雄 W45
○ 川村信之 E53

監事(2) 清水益文 F44 安藤正晴 B43

相談役(5) 藤原俊朗 K31 市川日出男 D32
牛込 進 Y33 篠田陽史 M33
○ 二杵幸夫 K39

参 与(12) 日比貞雄 W35 大橋照男 K36
宇佐美貞夫 F40 北村健治 B40
小田征一郎 E36 河辺 彰 K40
加藤作次 C40 張田吉昭 M43
伊藤要蔵 B42 楠田修三 A50
○ 北村 正 Es48 ○ 阿部完二 D41

顧問(7) 河本毅一 C32 戸荻吉孝 F39
飯田秀郎 W33 石川金治 C33
横田章宏 D33 道家清正 Y30
玉田欽也 W32

支部長(22)

北海道 三田村好矩 F41
東北 斎藤文伸 A51
東京 ○ 坂井利充 C42
甲信越 若林俊樹 M56
静岡 山之上誠 C49
三河 岩月幹雄 K56
名古屋 ○ 加川純一 K49
尾張 音無通男 W41
岐阜 ○ 元島栖二 D40
北陸 ○ 馬場清和 M44
三重 ○ 北川貴志 C50
大阪 木越正司 C44
兵庫 ○ 高瀬陽太郎 C53
岡山 宮崎勝秀 A45
広島 菱川躬行 E34
山口 岸田潤三 C58
山陰 糸賀輝穂 C51
香川 細谷芳照 C53
徳島 後藤田啓造 M38
愛媛 千羽茂雄 C43
高知 山崎健司 A54
九州 喜多村治雄 M40

代議員(84)

北海道(1) 秋山秀雄 Es43
東北(1) 栗村滋雄 C29
東京(7) ○ 樫尾恒次 C48 ○ 森本晃一 Es43
○ 小川一郎 F52 ○ 鈴木満雄 D45
○ 松浦明人 M47 石田交広 A63
○ 細谷佳弘 K50
甲信越(2) 若林俊樹 M56 樋口 順 C48
静岡(2) 藤井義麿郎 Es49 榊原 学 F48
三河(11) 中島和彦 Y58 吉木 満 W56
宇野富士夫 D③ ○ 岩田忠三 M59
沼澤成男 M59 ○ 守谷栄記 FM⑨
岡本幹浩 M60 ○ 松坂勝広 D61
長谷部勲 K56 二井郁夫 K58
岩月幹雄 K56
名古屋(23) ○ 水野 貢 C57 兼岩 孝 C54
藤田素弘 C60 ○ 荒金謙一 A45
○ 井澤知旦 A51 武内博明 Mb①
○ 小坂 卓 E⑥ 杉山耕一 Ma④
○ 南角吉彦 E⑪ ○ 泉地正章 W44
○ 橋本 忍 Y② ○ 小坂井孝生 K49
○ 大鹿秀正 F47 三宅正人 E60
森川民雄 W45 伊藤 豪 D41
緑 静男 D42 大橋聖一 D45
多賀 茂 Y62 小山敏幸 K61
守田賢一 F47 鷺見克典 B63
○ 松尾啓志 J58
尾張(6) 中村啓之 A41 服部重夫 Y43
立石吉行 M44 ○ 伊藤美保 D44
隠岐敏夫 D40 音無通男 W41
岐阜(7) 各務剛児 C53 亀山義比古 A43
堤 善治 M45 関尾光正 D41
大久保陽一 Es44 笹島 康 Y39
兼松克司 K42
北陸(2) ○ 黒田 茂 M47 ○ 吉岡正盛 B58
三重(4) 小林 明 G49 ○ 松林万行 D48
久世憲志 C52 太田啓雅 E62
大阪(5) 藤原康宏 E36 三木敏裕 E48
岡崎格郎 A46 玉水新吾 A51
田中耕嗣 G52
兵庫(2) ○ 高瀬陽太郎 C53 ○ 當舎良章 SC③
岡山(2) 虫明正博 K59 ○ 野村幸宣 C54
広島(1) 菱川躬行 E34
山口(1) 岸田潤三 C58
山陰(1) ○ 土肥美実 C57
香川(1) 浅野啓三 F60
徳島(1) 福井一博 A46
愛媛(1) 浜田裕介 D⑭
高知(1) 山内 健 C53
九州(2) 喜多村治雄 M40 安達高春 A46

○:新任

平成26年度事業報告

1. 組織改革に向けた活動

平成25年4月1日に一般社団法人へ移行し、定款に基づく公益目的事業である大学支援を的確に実施すると共に会員交流・会員優待制度の導入等同窓会としての諸事業を実施した。更に新入生に対する諸納金制度の導入により財政基盤の充実を図った。

2. 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援

国際的に通用する人材育成と大学の国際化を支援するため、学生・教職員の海外留学・派遣に対する学長裁量経費の充実に資する支援を行った。

- ① 学生・教職員の海外研鑽支援－学生31名、教員5名
- ② 外国人留学生の支援－留学生3名、教員2名

(2) 教育研究等支援

- ① 第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。
- ② 教員の研究力向上に資するため研究助成金を交付し、母校における研究の振興を図った。
- ③ 名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ④ 理事長及び常務理事が名古屋工業大学基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。
- ⑤ 名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。特に大学基金への寄付について、会誌への掲載や工業会の諸行事の機会に協力要請を行なった。
- ⑥ 名古屋工業大学の定年退職教職9名に、会員総会で感謝状と記念品を贈呈した。

(3) 学生支援

- ① 国際化推進のための海外留学等の支援を行った。（再掲）
- ② 名古屋工業会賞の贈呈
平成27年3月23日の学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生19名に対し、理事長より工業会賞として表彰状並びに記念品を贈呈した。
- ③ 前期入試における各学科の最優秀者7名に対し、平成26年4月6日の入学式において、工業会特別奨学金を授与した。
- ④ 名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。
- ⑤ 挑戦的課外活動活性化奨励金として、ロボコン世界大会、鳥人間コンテスト等に重点的に課外活動奨励金、また工大祭には本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。
- ⑥ 平成26年3月卒業の終身会員に祝意を表し、記念品を贈った。
- ⑦ 学生の就職支援の一環として、OBの企業トップによるセミナーおよびOB講演会を開催した。
- ⑧ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。
- ⑨ 新入生の保護者に工業会の学生支援等の説明を行うと共に、在学生の保護者に大学情報等の提供のため、会誌を送付した。

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 財政基盤の強化のための会員増強活動

① OB未入会者への勧誘

- 1) OB入会率向上のため、卒業後経過年数による終身会費割引制度を改訂した。

- 2) 各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
- 3) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。
- 4) 企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
- 5) 本年度新規入会者 () は前年度実績

終身会員 244(11)名、 年度会員 13 (18)名、 合計 257(29)名

②新入学生への勧誘

本年度新規入会者

終身会員 955(1,001)名、 学生会員 1(0)名、 合計 956 (1,001)名

③在校生の勧誘

- 1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し、入会勧誘を行った。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、入会勧誘を行った。
- 3) 本年度新規入会者

終身会員 0(0)名、 学生会員 0(1)名、 合計 0(1)名

④平成 26 年度末、対象者 60,085(59,076)名、会員 13,004(12,608)、OB 会員入会率； 21.6(21.3)%

会員の内訳 終身会員 9,924(9,348)名、年度会員 3,080(3,260)名

この他、終身会費一括納付制度による学生会員 955 名（累計 3 年間 2,984 名）が在籍

(2) 活性化活動

①会員交流および広報活動

- 1) 会誌「ごきそ」を隔月刊行し会員に送付した。更に、3・4 月号は新入生に、5・6 月号は在校生の保護者に送付し、名古屋工業会の広報に資した。
- 2) ホームページをリニューアルし、内容の充実と即時性を高めた。特に会員限定欄の充実を図ると共に、更にホームページを補完するため、各支部・単科会のホームページとのリンクを図った。
- 3) 工業会が保有する卒業生名簿の整備について、卒業生連携室の協力を得て検討を行った。

②支部活動

- 1) 各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。
- 2) 支部長会議を開催し、支部活動の現況と活性化等について検討した。

③単科会との連携

- 1) 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。

④講演会の開催

- 1) 会員総会後に特別学術講演会を開催した。

講師： 田中孝典氏 株式会社 山下設計 代表取締役社長

演題：『設計者から見た 建設業の真実』

⑤記念品の贈呈

- 1) 平成 25 年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、会員総会で記念品を贈呈した。

牛込 進 (Y33)	旭日小綬章	阿部良弘 (Y33)	瑞宝中綬章
中井三留	瑞宝中綬章		

- 2) 卒業満 70, 60, 50, 40 周年に該当する会員に、会員総会にて記念品を贈呈した。

70 年－昭和 19 年卒 45 名、60 年－昭和 29 年卒 63 名 50 年－昭和 39 年卒 141 名

40 年－昭和 49 年卒 105 名

平成26年度収支決算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	7,212,361	7,095,000	117,361
(1) 財産利子収入	2,680,831	2,673,000	7,831
(2) 会誌広告収入	605,000	510,000	95,000
(3) オフィス賃貸収入	2,993,530	3,000,000	△ 6,470
(4) 駐車場賃貸収入	912,000	912,000	0
(5) 寄附金収入	21,000	0	21,000
2) 入会金, 会費収入	89,308,000	86,010,000	3,298,000
(1) 入会金収入	69,000	120,000	△ 51,000
(2) 年度会費収入	5,129,000	6,750,000	△ 1,621,000
(3) 終身会費収入	83,970,000	79,000,000	4,970,000
(4) 賛助会費収入	140,000	140,000	0
3) 雑収入	37,808	35,000	2,808
(1) 雑収入	37,808	35,000	2,808
4) 積立預金取崩収入	1,179,949	3,000,000	△ 1,820,051
(1) 減価償却積立預金取崩収入	1,179,949	3,000,000	△ 1,820,051
5) 前期繰越収支差額	5,980,608	5,980,608	0
(1) 前期繰越収支差額	5,980,608	5,980,608	0
収入の部合計	103,718,726	102,120,608	1,598,118

注1

注2

※ 平成26年度借入限度額及び債務負担額についての該当事項はありません。

注1 年度会員から終身会員への切り替え促進の為 (○ B 終身会員244名増加)

注2 会員証製作用印刷機購入及びガス管付替え工事費用等の為の取崩。なお会員名簿ソフトの購入は次年度に繰越

2. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業費	81,452,679	82,750,000	△ 1,297,321
(1) 大学支援事業	46,247,874	45,900,000	347,874
ア 教育研究支援	7,536,540	8,100,000	△ 563,460
イ 学生支援	38,711,334	37,800,000	911,334
(2) 工業会の充実のための事業	31,603,152	33,340,000	△ 1,736,848
ア 会員増強活動	1,819,187	2,100,000	△ 280,813
イ 広報活動	16,815,631	17,000,000	△ 184,369
ウ 支部活動	11,456,211	11,600,000	△ 143,789
エ 会員慶弔	1,330,659	2,440,000	△ 1,109,341
オ 講演会	181,464	200,000	△ 18,536
(3) 収益事業	3,601,653	3,510,000	91,653
ア オフィス賃貸	3,019,404	3,085,000	△ 65,596
イ 駐車場賃貸	582,249	425,000	157,249
2) 管理費	10,250,954	10,390,000	△ 139,046
(1) 総会経費	2,520,243	2,550,000	△ 29,757
(2) 管理諸経費	7,730,711	7,840,000	△ 109,289
3) 固定資産取得支出	1,179,949	3,000,000	△ 1,820,051
(1) 固定資産取得支出	1,179,949	3,000,000	△ 1,820,051
4) 次期繰越収支差額	10,835,144	5,980,608	4,854,536
(1) 次期繰越収支差額	10,835,144	5,980,608	4,854,536
支出の部合計	103,718,726	102,120,608	1,598,118

注1

注2

注3

注1 課外活動活性化経費(ロボットコンテスト・鳥人間コンテスト等) の増

注2 会員の記念品代及び郵送費の減

注3 会員証製作用印刷機購入及びガス管付替え工事費用等、なお会員名簿ソフトの購入は次年度に繰越

正味財産増減計算の部

平成27年3月31日

(1)増加の部

(単位:円)

	勘定科目	決算額	備考
資産の増加	当期繰越収支差額	10,835,144	
	建物付属設備増加額	429,841	
	什器備品増加額	750,108	
	減価償却積立預金増加額	2,531,304	
	退職給与引当預金増加額	1,250,000	
	差入保証金増加額	100,000	
負債の減少	退職給与引当金減少額	3,091,000	
増加額合計		18,987,397	

(2)減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	前期繰越収支差額	5,980,608	
	建物償却費	1,537,525	
	建物付属設備償却費	379,481	
	什器備品償却費	614,298	
	減価償却積立預金減少額	1,179,949	
	退職給与引当預金減少額	3,091,000	
	現金預金減少額	100,000	
負債の増加	退職給与引当金増加額	1,250,000	
減少額合計		14,132,861	
当期正味財産増減額		4,854,536	
前期繰越正味財産額		316,654,672	
期末正味財産合計額		321,509,208	

貸借対照表

平成27年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	300,573	337,532	△ 36,959
預金	68,268,827	23,967,125	44,301,702
流動資産合計 (A)	68,569,400	24,304,657	44,264,743
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
調査研究助成積立預金	22,534,377	22,534,377	0
退職給与引当預金	7,019,000	8,860,000	△ 1,841,000
減価償却積立預金	58,012,288	56,660,933	1,351,355
特定資産合計 (B)	87,565,665	88,055,310	△ 489,645
(2) その他固定資産			
土地	26,150,730	26,150,730	0
建物	34,216,626	35,754,151	△ 1,537,525
建物付属設備	2,490,326	2,439,966	50,360
什器備品	2,988,113	2,852,303	135,810
投資有価証券	106,680,788	146,190,995	△ 39,510,207
差入保証金	150,000	50,000	100,000
その他固定資産合計 (C)	172,676,583	213,438,145	△ 40,761,562
固定資産合計 (D)=(B)+(C)	260,242,248	301,493,455	△ 41,251,207
資産合計 (E)=(A)+(D)	328,811,648	325,798,112	3,013,536
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計	0	0	0
2. 固定負債			
受入保証金	283,440	283,440	0
退職給与引当金	7,019,000	8,860,000	△ 1,841,000
固定負債合計 (G)	7,302,440	9,143,440	△ 1,841,000
負債合計 (H)	7,302,440	9,143,440	△ 1,841,000
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計 (I)	321,509,208	316,654,672	4,854,536
負債及び正味財産合計 (J)=(H)+(I)	328,811,648	325,798,112	3,013,536

財 産 目 録

平成27年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
(資産の部)		
I. 流 動 資 産		
1. 現金	300,573	
2. 普通預金(三菱東京UFJ銀行)	25,285,126	
3. 当座預金(ゆうちょ銀行)	1,983,701	
4. 定期預金(大和ネクスト銀行等)	41,000,000	
流動資産合計		68,569,400
II. 固 定 資 産		
1. 特定資産		
(1) 愛知県公債 (野村証券)	42,534,377	
(2) 国 債 (野村証券)	45,031,288	
特定資産合計		87,565,665
2. その他の固定資産		
(1) 土地 会館用地393.78 m ²	26,150,730	
(2) 建物 会館鉄筋5階建延646.88 m ²	34,216,626	
(3) 建物附属設備	2,490,326	
(4) 什器備品	2,988,113	
(5) 国 債 (野村証券)	54,968,712	
(6) 国 債 (大和証券)	10,000,000	
(7) 愛知県公債 (野村証券)	1,465,623	
(8) 大阪府公債 (野村証券)	30,000,000	
(9) 農林債 (野村証券)	10,000,000	
(10) 金銭信託(大和証券等)	246,453	
(11) 差入保証金 (セコム・八重洲倶楽部)	150,000	
その他の固定資産合計		172,676,583
固定資産合計		260,242,248
資 産 合 計		328,811,648
(負債の部)		
I. 流 動 負 債		
流動負債	0	
流動負債合計		0
II. 固 定 負 債		
受入保証金	283,440	
退職給与引当金	7,019,000	
固定負債合計		7,302,440
負債合計		7,302,440
正味財産		321,509,208

監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水 嶋 敏 夫 殿

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行、事業報告及び計算関係書類に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況等について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。以上の方法に基づき当該事業年度に係る事業報告書について検討致しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書）について検討致しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告書の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 27 年 4 月 15 日

一般社団法人 名古屋工業会

監事

清水益文 

監事

安藤正晴 

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水 嶋 敏 夫 殿

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの公益目的支出計画実施報告書に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において公益目的支出計画の実施の状況を調査致しました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検証しました。

2 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

平成 27 年 4 月 15 日

一般社団法人 名古屋工業会

監事

清水益文 

監事

安藤正晴 

【別紙2：公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【 26 年度(4月1日 から 3月31日 まで)の概要】

1. 公益目的財産額	345,398,646円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1)+(2)-(3))	90,368,584円
(1)前事業年度末日の公益目的収支差額	44,262,676円
(2)当該事業年度の公益目的支出の額	46,247,874円
(3)当該事業年度の実施事業収入の額	141,966円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	255,030,062円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	

注：詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	(1)計画上の完了見込み	平成33年3月31日
	(2)(1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円	345,398,646円
公益目的収支差額	45,819,094円	44,262,676円	91,638,188円	90,368,584円	137,457,282円
公益目的支出の額	45,961,060円	44,404,642円	45,961,060円	46,247,874円	45,961,060円
実施事業収入の額	141,966円	141,966円	141,966円	141,966円	141,966円
公益目的財産残額	299,579,552円	301,135,970円	253,760,458円	255,030,062円	207,941,364円

注：前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。